

『ドイツ語教育』執筆要領

1. 原稿提出について

- (1) 原稿は、必ず決定稿を Word ファイルで送付すること。
- (2) 図版がある場合は、JPEG または TIFF 形式のデータを原稿とともに送付する。
- (3) 校正段階での加筆はできません。

2. 原稿の形式

- (1) a) 原稿 1 枚目は、上部 4 行に表題・執筆者氏名・所属を明記しその下にキーワードを 4 つ程度挙げる。併せてキーワードのドイツ語訳も提出する。ただしドイツ語ミニ情報とお知らせにはキーワードは不要。
 - b) 論文および研究ノートは、キーワードの下に日本語のレジюме (400 字程度)、その下にドイツ語のレジюме (100 語程度) を記す。
 - c) レイアウトについてはドイツ語教育部会ホームページに掲載しているフォーマットに従うこと。
 - d) 段落の書き出しは 1 字下げる。
 - e) 句読点にはブント [.] とコンマ [,] を用いる。
 - f) 作品名・雑誌名には原則として『 』, 引用文には「 」を用いる。ドイツ語の引用文にはドイツ語引用符 „ ” を用いる。
 - g) 用字用語は、原則として常用漢字・新仮名づかいを用いる。一般に用いられていない表現・文字は避けること。
 - h) 日本語文中の括弧、ブント、コンマ、コロ、セミコロは全角のものを用いる。
 - i) アラビア数字は日本語文中であっても半角とし Times New Roman を用いる。
 - j) 欧文中の括弧、ブント、コンマ、コロ、セミコロは半角のものを用いる。また、これらの後や注番号の後には、半角あけること。
- (2) 参考文献は末尾にまとめて挙げる。

3. 注のつけ方（原則として脚注にしてください）

注は通し番号とし、本文中の関係箇所アラビア数字と半括弧をつける。
注が文全体にかかわるときは、ピリオドなどの後ろにつける。

例：…¹⁾ ……²⁾

4. 引用

引用元・参考文献を挙げる場合には、以下の形式に準じる。

嶋津（2017: 16）によれば…

…と指摘されている（細川 2016）。

…と言われるように（大谷 2018；水口・長谷川 2016），…

5. 文献リスト

日本語の参考文献とドイツ語の参考文献は分けて記述し、日本語文献は著者名の五十音順に並べる。ドイツ語文献の挙げ方はドイツ語の執筆要領（Gestaltungsrichtlinien）を参照。

雑誌掲載論文

早川東三（1976）：「決定度」から見た後域における語順について。『ドイツ文学』57, 30-39.

書籍

岩崎克己（2010）：『日本のドイツ語教育とCALL その多様性と可能性』三修社。

細川英雄，尾辻恵美，マルチェッラ・マリオッティ（編）（2016）：『市民性形成とことばの教育 母語・第二言語・外国語を超えて』くろしお出版。

吉島茂，境一三（2003）：『ドイツ語教授法 科学的基盤作りと実践に向けての課題』三修社。

オンライン文献・ウェブページ

藤原三枝子（編）（2017）：『日本の大学におけるコミュニケーションなドイツ語の教科書—教師・学習者・使用の実践から考える—』日本独文学会研究叢書 125. <http://www.jgg.jp/pdf/updata/SrJGG-125.pdf> (2019年1月20日閲覧)。

日本独文学会 <http://jgg.jp> (2016年1月20日閲覧)。